

平成29年度第3回 習志野市地域支え合い推進協議会

【開催日時・場所】

平成30年2月6日（火） 9時30分から
習志野市庁舎1階会議室

【出席者】

（委員）※会長、副会長の後50音順
山下会長、沢田副会長、大川委員、木野委員、佐藤委員、杉本委員、杉山委員、
西野委員、荷見委員、平賀委員、藤平委員、松丸委員
（市）
遠山健康福祉部長、海老原高齢者支援課長、西川健康福祉部主幹、
岡澤同課係長、伊藤同課係長、中村同課主査、和田同課副主査、
植草同課主事、田久保同課主事
（第2層生活支援コーディネーター）
川崎（谷津圏域）、田久保（秋津圏域）、山口（津田沼・鷺沼圏域）、
野村（屋敷圏域）、細野（東習志野圏域）

【傍聴人数】

2人

【次第】

- 1 開会
- 2 健康福祉部部長挨拶
- 3 議事
（1）第2層協議体の活動状況について（報告・検討）
（2）各日常生活圏域における運営上の課題について（グループ討議）
（3）今後の第1層協議体について
- 4 その他
- 5 閉会

【配布資料】

資料1 生活支援体制のイメージ
資料2 秋津圏域協議体「地域見守り 支え合い会議」報告書
資料3 各日常生活圏域 協議体 開催予定
資料4 各日常生活圏域における運営上の課題について

【1 開会】

山下会長の司会進行により、開会。

【2 健康福祉部部長から挨拶】

健康福祉部部長から、委員に対し挨拶。

【3 議事】

(1) 第2層協議体の活動状況について(報告・検討)

- ・生活支援体制のイメージ

(岡澤高齢者支援課係長より、資料1に基づいて説明)

<山下会長>

3つ申し上げたいと思います。

1つ目が、中長期的な視点に立って地域の在り方を考えなければならない。行政においては、要介護状態の軽減に繋げるために、2025年、あるいは、それ以降の中長期的な視点で予算を作成してほしい。

2つ目が、高齢者の状態像を考えないといけない。軽度な支援を必要とする高齢者像には、状態や家庭環境、必要とする地域資源やサービスなど多様にある。そのため、個人と家族と地域社会を考慮して、生活支援体制を整備する必要がある。

3つ目が、圏域間でも状況が違うと思うが、圏域内の小地域でも違うことが当然である。その違いをあまり細かくすると、違うことしか話せないの、違いを受け止めつつ、もう少し大きな話として進めていく必要がある。

- ・秋津圏域の協議体の開催内容について

(田久保第2層生活支援コーディネーターより、資料2に基づいて説明)

<山下会長>

うまくいったかよりも、色々やって感じるのがコーディネート業務では重要なので、恐れずに取り組むことが大事だと思う。

共通の話題をどうやって作るかが、住民同士の話し合いの場では重要で、秋津圏域は認知症をキーワードにしたのが特徴である。

1つ質問するが、独居の高齢者が多く、一人でサロンに通うことが心配な人がいるとあるが、具体的に何が必要なのか。

<田久保第2層生活支援コーディネーター>

地域サロンの参加につながるが、来た道を帰れない、決まった時間に来れないなど、開催者側が不安に感じている。

<山下会長>

サロンに認知症の人が通い続けるにはどうすればいいかということ、とても良い視点だと思う。

具体的な課題があるならば、その人のことについて話し合い、解決策を作りながら全体でどうするかにつなげるというように、個別の問題が全体の問題と

いう思考に立つことがコーディネーターとして大事である。

支援する人が、認知症の人にどうやって声掛けをするか、声掛けができるまちづくりをどうすればいいかということについては、まず認知症の人を支えた家族に会議のメンバーに入ってもらい、市民とつなげていくと良い。そうすることで、支えられていた家族の方が、経験を話すことで地域の役に立つことができるというように、役割を流動化させていくことができるので、意識してみると良いと思う。

・その他の圏域の開催準備状況について

(川崎第2層生活支援コーディネーター、山口第2層生活支援コーディネーター、野村第2層生活支援コーディネーター、細野第2層生活支援コーディネーターより、資料3に基づいて説明)

<山下会長>

第2層協議体が動き始める中で、何を議題にするか、どうやって進行すればよいか、次につなげるために何を仕掛ければいいのかというのが、コーディネーターとして重要になる。地域づくりの中で、地域社会の支えがコーディネーターの活動のテーマになる。そこに向けて、確実に1歩ずつ進めるように、ショートゴールを明確に定めないといけない。

資料3の開催に当たってアドバイスいただきたい事項についてであるが、会議の進行については、コーディネーターや一人が話しすぎないように市民の方々に語りきらせることが大事になる。また、アセスメントの基本情報の収集や、話し合う環境を整えることも重要になる。

次に、会議の進行方法については、参加者の顔と役割と何を考えているかを知ることを目標にしていけば、方法は何でも良いと思う。コーディネーターが参加者の考えを知るというために、KJ法などを用いて、アンケートを取るのも良いと思う。また、コーディネーターには、習志野市の方針を語れるようになってもらいたいので、習志野市の方で原稿等を作成した方が良い。

高齢者の孤立について、まずは、学習に重きを置くということが、交流する、顔の見える関係、共通の言語を作るという上で、非常に大事である。ただ、「高齢者」の孤立ではなく、世代を超えて「孤立する人」としてとらえた方が、話しやすいかと思う。そして、孤立というのは、社会的に孤立することが問題であり、その環境が地域社会に生まれるかもしれないということを共有することが学習の形になる。次に、孤立している人にどう接していくかということが大変だが、コーディネーターとして手法などを伝えてほしい。

グループ討議では、見守り、サロン、家事支援の3つの支え合いを素材として進めていきたいと思う。

<杉山委員>

津田沼・鷺沼圏域は、協議体の日程を2日に分けているが、どのように分けているのか。

<山口第2層生活支援コーディネーター>

地域ごとに分けた方が話しやすいと考え、地域で分けた。また、グループについても同じ町名や近所のことが分かり合えるようなグループ分けとした。

<杉山委員>

他の第2層協議体でも、各地域で違う課題が出てきたときは、グループ分けすることも大事だと思う。

また、協議体を運営していく中で、協議体参加者の実践の中でよい例があれば、その実践を圏域に広めていけたらというテーマも有効に思う。ただし、住民感情がぶつからないように、和らげる言葉を持ちつつ、ぶつかる場面が出た時に対応できるように、議論の進め方などの情報を集めていただきたい。

(2) 各日常生活圏域における運営上の課題について(グループ討議)

グループ討議

グループ1(座長は山下会長)

山下会長(淑徳大学 総合福祉部 准教授)

大川委員(居宅介護支援事業所あろんぐらいふ)

西野委員(民生委員児童委員)

荷見委員(生活協同組合パルシステム千葉)

平賀委員(公益社団法人習志野市シルバー人材センター)

松丸委員(習志野市秋津高齢者相談センター)

川崎第2層生活支援コーディネーター(谷津圏域)

山口第2層生活支援コーディネーター(津田沼・鷺沼圏域)

細野第2層生活支援コーディネーター(東習志野圏域)

グループ2(座長は杉山委員)

沢田副会長(社会福祉法人 豊立会 習志野市立東部デイサービスセンター)

杉山委員(習志野市社会福祉協議会(習志野市生活支援コーディネーター))

木野委員(市民協働団体運営)

佐藤委員(マイプランならしの訪問介護事業所)

杉本委員(民生委員児童委員)

藤平委員(ならしの地域福祉事業所ぬくもり)

田久保第2層生活支援コーディネーター(秋津圏域)

野村第2層生活支援コーディネーター(屋敷圏域)

グループ1

<細野第2層生活支援コーディネーター>

- ・協議体の人選には、テーマだけでなく、先を見越した人選も必要。
- ・具体的な行動に結びつけるためには、テーマをどのように議題に挙げ、どこまで絞るかが重要。
- ・サロンだけでなく、家事支援も必要であり、サロンと家事支援、地域を結び付けていくイメージを最初に伝えていかないといけない。

グループ2

<野村第2層生活支援コーディネーター>

- ・要介護・要支援や認知症の高齢者、子ども等多世代の方が集まって見守りができるというのが理想的。また、認知症カフェなどでも、いろんな人が参加するような場づくりを行うことができれば、高齢者がいろんなところに参加できるようになると思う。
- ・サロンについては、声掛けが大切。認知症の高齢者の参加について、家族が思うよりも、程度が軽い場合が多いので、認知症サポーター養成講座を受けた人の活動の場として示していけたらと思う。
- ・場所の問題では、利用できる場所や人数などの情報収集をし、共有していく必要がある

<山下会長>

第2層協議体について、最初の目標は、少し時間がかかってもいいので、波長合わせをすることとしていけばいいと思う。また、コーディネーターは自分なりの考えを持って、起承転結を意識して、運営していく必要がある。その中で、協議体参加者とのずれを認め、コーディネーター業務を補正していく癖をつけてほしい。また、会議と会議の間にも、協議体参加者に声をかけ、意見を聞き、運営の調整を行うようにしてほしい。また、自治会などの組織との調整は、行政などと連携を取り行ってほしい。

(3) 今後の第1層協議体

<岡澤高齢者支援課係長>

平成30年度も習志野市地域支え合い推進協議会を継続して開催していく。平成30年度は、第1層と第2層の互いのフィードバックを行い、各圏域での活動に生かしていけるようにしていく。

【4 その他】

<西川健康福祉部主幹>

平成30年度の協議会は3回程度を行う予定。

日程は、第1回が7月上旬から中旬、第2回が10月中旬から11月上旬、第3回が1月中旬から2月上旬を予定している。日程や議題、会場等詳細が決まり次第御案内する。

【5 閉会】